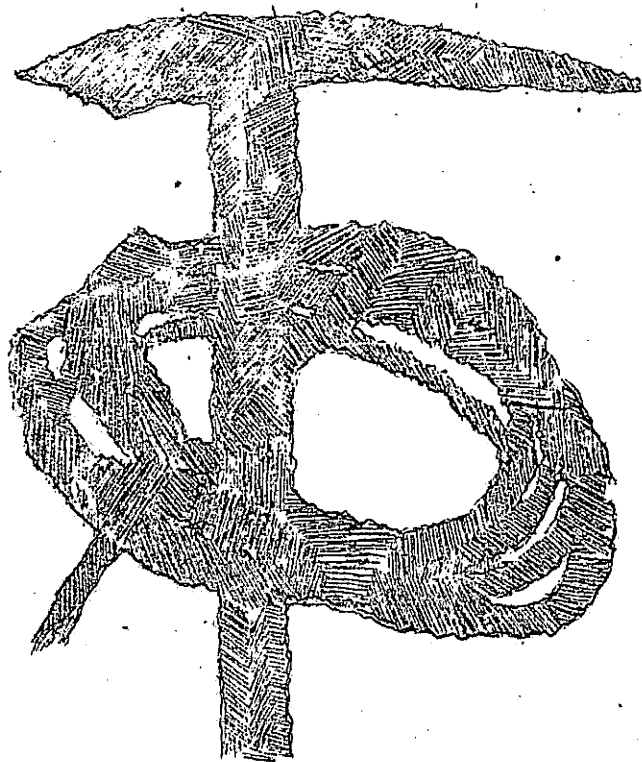


Shinshu Alpine Club  
 新人観迎山行 記録

DE3035

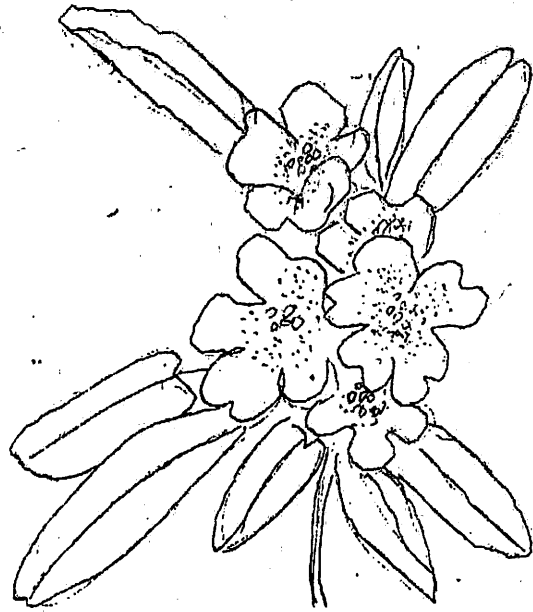
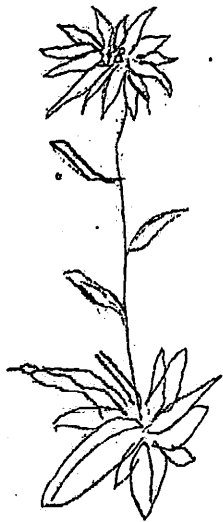
1960.4.29 ~ 5.5

60	1965
59	64
38	63
37	62
36	61
35	60



参加クラブ

- 信大松本山 岳部
- 信大松本分校 山岳部
- 信大長野山 岳部
- 信大農学部 山岳部
- 信大繊維学部 山岳部



# 1 合同合宿を省めて

教育分枝山岳部

合同合宿を省めて 松本分枝の立場から簡単にその感想を述べてみたいと思います。私達松本分枝山岳部にとっては、この第一回合同合宿は非常に有意義なものであったという事が出来ます。分枝は一二年生の者どしかも部員も極少人数であるため過去を見て大体合宿らしい合宿はなかったといえます。大体は部員中気の合った二三人で山に行くという程度でした。従って、そこには、「部員が少ない実際的な計画性は非常に欠けていたと思われる。そういう状態からこの合同合宿に参加し、全学部の千坪生と共に行動した事は、三年生に於ると長野の分枝に行くという特別の事情のある分枝にとっては、全ゆる面非常にプラスであったと思います。」例えば、もしこの合宿がなかったら、分枝から長野本校へ行った場合、今までの様に、その向ほうまくりかないと思います。この様な一面においても、今回の合同合宿は分枝に新しい活動の方向を示してくれたといえます。

従って松本分枝としては、無条件にこの合宿が有意義であったことを認めます。

## 2. 合宿を省かす

農学部山岳部 川村佐一 行

今まで、同じ大学でありながら、他校の山岳部とほとんど変りなかつた。各<sup>1</sup>学部の山岳部員が、一堂に集まり、一週間の生活を共にした。これは、4年間各学部に於いてしても得られなかつた多くの同好の志を、お互いに得られたことと思う。せや、私の見た目には、文理調の比重が大きかつたと思うが、各学部の部員が、それに調子を合わせて、協力された事は、本山岳会の将来は大きく開けてゆく事を確信している。

今回は人数が大すぎたので、エッセイ上の苦勞、その他各係の苦勞の割に出発が遅れる。これが縦走となると、大きな問題となる。故に素パーティーに分ける事も良いと考える。その時に何学部はどこへ行くとしようののではなく、混成パーティーを組めば、少なくともそのパーティーに分ける親密観は、一層増す事と思います。13133欠負はあつたとはいへ、その利便の何十分の一にもならなかつた。

# 行動表

部員氏名	第1日 4月29日	第2日 4月30日	第3日 5月1日	第4日 5月2日	第5日 5月3日	第6日 5月4日
長野山岳部						
蒔田 CL	徳本峠越えL	天狗西木CL	霧沢	停滞	天狗川-奥木	奥明神
大西 SL	〃 L	奥明神	〃	〃	〃	西木縦走
新名 SL	〃	〃	〃	〃	西木 L	〃
若狭	〃	霧沢	天狗川	〃	天狗 L	奥明神
中村(天)	〃	西木	霧沢	〃	奥明神	下山
尾形	〃	霧沢	天狗	〃	天狗	〃
大井	〃	〃	〃	〃	〃	奥明神
加藤(留)	〃	西木沢 L	霧沢 L	〃	奥明神	南稜
山口	〃	〃	〃	〃	〃	大百
片岡	〃	天狗-コノ頭	天狗	〃	夕岩尾根	〃 L
櫻田	〃	霧沢	〃	下山		
三石	〃	〃	〃	停滞	奥明神	大百 L
水丸	〃	天狗-西木	霧沢 L	〃	〃	南稜

柳 沢(庄)	"	西水	霞沢	停滞	天狗	奥明神
上 杉	"	"	"	"	"	"
釜 村	"	"	"	"	"	"
新 井	"	"	"	"	西水	六百
下 倉	"	"	"	"	"	"
戸 沢		徳本峠	徳本峠	"	"	"
宮 島	ジープ	奥明神	天狗	下山		
小 野		徳本峠	徳本峠	下山		
好隊 栗 林	バス	蝶	西水	停滞	下山(徳本)	
松 橋	"	"	"	"	"	
中 村(庄)	"	"	"	"	"	
松本山岳部						
岩 本 SL	徳本崎 L	コブ豆 L	スキー	"	西水 L	魂
木 野	"	西水 L	天狗	"	奥明神 L	南稜
青 田	"	" L	"	"	西水	六百
茅 野	バス	霞沢 L	池	"	コブ L	南稜 L

番 号	橋本峠	天狗西水	奥明神	下山		
坂本CL	ジープ	コブ頭	吼スー	停帯	西水L	下山
山田	・	コブ尾根	霞見L	下山		
宮下	橋本峠	奥明神	天狗	停帯	天狗沢→下山	
中藤	一〇	西水	霞見	・	〃	
窪田	・	・	奥明神	〃	下山	
伊藤SL	〇L	コブ尾根	霞見L	〃	奥明神L	南稜
織リナー 水林(密)	〃	天狗コブ頭	吼	〃	沈	九百山
後藤	〃	・	天狗	〃	西水	・
福田	〃	奥明神	・	〃	・	〃
水口	〃	西水	霞見	〃	天狗	奥明神
水林(奥)	〃	・	吼スー	〃	・	〃
朝倉	〃	天狗-コブ頭	奥明神	〃	天狗沢-下山	
岡	・	西水 独橋	・	〃	天狗	奥明神
山浦	〃	・	霞見	〃	西水	九百

(6)

中西	徳本峠	西木 独標	霧 天	停滞	西木	六百
石井	〃	西木	〃	〃	天狗 天	奥目神
出島	〃	〃	〃	〃	〃	〃
奥島	〃	〃 独	〃	〃	西木	六百
池田	〃	〃	〃	〃	〃	〃
村瀬	〃	〃	〃	〃	〃	〃
宮内	〃	〃	〃	〃	天狗	奥目神
加藤	〃	〃 独	〃	〃	西木	六百
小谷	〃	〃	〃	〃	〃	〃
畑山	〃	〃	〃	〃	〃	〃
長田		心ス	霧 天	〃	〃	〃
清水					入山	〃
農学部山岳部						
蟹江	ジープ	西木シ	丸	停滞	コブ尾根	奥目神
堀	〃	〃シ	〃	〃	夕ニ岩シ	丸



川村 SL	徳本峠	奥明神 L	霞沢 L	停滞	奥明神 L	コブ尾根
中藤 (原)	"	西木 L	奥明神 L	"	"	"
佐藤	"	"	"	"	天狗 L	"
葛西	先着	天狗-コブ頭	霞沢	"	" L	"
松本分校山岳部						
西村	徳本峠	西木	"	"	"	奥明神
藤井 CL	"	"	"	"	"	"
玉井	"	"	下山			
織維学部山岳部						
野村 CL	" L	"	霞沢	"	下山	
若林	"	"	池-下山	"		
大沢	"	"	霞沢	"	西木	六百
森田	"	" 独	"	"	"	"
大林	"	"	"	"	"	"
藤原					入山	奥明神
大久保					"	"

## コースタイム . パーティー . リーダー会の反省.

4月29日 快晴後曇リ

6時 松本発 (貸切りバス) 7時 島々宿着 10名のパーティー 6班に分かれ徳本越えをする。

2時30分~3.30 徳本峠着 5.20~6.00 水梨平BC着。

ジープ組は上高地に乗り込め BC説帯にあたる。

## 反省会

- 来た人の状態はどうか?
  - 四、五いたか概して状態は良く二人は途中で回腹したか、やはり荷物は負ける事は出来たか
- テント設営隊の方はどうか?
  - 5時までには仕事が終わった、仕事は準備中にはかどったか、しき板には苦労した。
- 峠の雪の状態はどうか?
  - 例年より少なかった、又道の状態も良かった。
- ピッチは守れたか?
  - 急傾斜の取り付きから30分ピッチでやったパーティーもあった。
  - 登りは30~40分ピッチ位がよくなる。
  - 長野の場合、場所、時に依り変える。岩魚留まで60分位、その後30~40分位がよくなる。
  - 時間をきめておくと、新人は時計ばかり見ている。(笑)
- リーダーの統括方式について。
  - 学年を区別せずテキパキやるべきだ。
  - 新人をほしほするのではなく、あくまで訓練である事を頭の中に置くべきだ。
  - ... (以下不明) ... ても良いんじゃないか。

- ・ 滝は今までワンゲル的で今日とはかなり違っている。
- ・ 長野はやはり屋合いをかけ、かなり訓練的である。
- ・ リーダーは新人全体の平均値を知っておくべきである。
- ・ 新人は抵抗を感じるのは当然だろう。新人が部に残るか残らぬかは、新人がその抵抗を乗り越えるか越えぬかで決まる。
- ・ 明日からのエッセン計画は
  - ・ エッセン当は四時起床 7時喰り上げ 8時出発。
  - ・ 今日とはつめたかより明日は軽く見る。1回に1人、新人半分、旧部員半分位にして。
  - ・ 食事の食方は出来た準か、リーダー単位の方が早く行動出来るんじゃないか。
  - ・ 光は喰えるだけ喰ってもらう。光に例しては特別購入しても良いだろう。
  - ・ 新人の楽しみは喰う事にあるのだから、出来るだけ美味しいものをつくる事。

PM 8.00 ~ 9.40分

4月30日 曇り後小雪、下は小雨

○ 奥明神沢一前穂一奥又白 リーダー 川村 大西、新名 宮島、宮下、福田

7.15 BC着 8.50 岳三沢水舎 アイゼンをつける。 10.50 穂線着 11.30 岩陰でエッセン  
11.55 前ホセーク着 A沢を下る。 1.15 奥又の池。 松高ルンゼをグリセード。 3.15 養魚場  
着 3.55 BC着。

リーダー会

・ 上まで快調。穂線はほとんど雪がなかった。下りは奥又だったか。雪が硬く、アイゼンとコンテニアスで下る。奥又の池手前でサイル、アイゼンを取り、松高ルンゼの1/3位を歩き、残りはグリセードで元手に下った。

○ 天狗沢一西本 L 高田 水丸、松井 甲村 山口

(9)

7.15 BC 発 9.15 天狗沢コル着 12.30 西木頂上着 3.40 BC着

リーダー会 コルまでには奥木組サビ一組、西木沢の3/3以上はアイゼンを使用する。  
雪は非常に多かった。全員元気。

○ コブ尾根 L 伊藤 山田

7.20 BC 出発 9.15 頂上 10.30 コブの峰 12.30 稜線 1.30 天狗のコル  
3.45 BC着

リーダー会

- 非常に危険性を含んだパーティーだった。(アイゼン、サイルを使わなかった。)
- コブ尾根の特徴であるけんすり下降をすべりだった。
- 雪も硬いのにアイゼンをつけなかったのは非常識じゃないんじゃないだろうか。

○ 西木 L 蟹江 他

7.10 出発 9.15 西木小屋 独標カーポートにエグリスード、昼食 独標 12.10~12.20  
各パーティー1名ずつ稜道を下る。 1.15 西木頂上、西木沢を下る。 2.35 岳沢出合  
3.15~3.30 木呑場 4.00 BC着

リーダー会

- グリセードの練習を自由にした。
- 新人の一人がピッケルの持ち方を知らなかったため、スタッフに失敗した。一寸ケガをした。
- その直後にセニヤ部員がスリップ、ピッケルを離してしまふ。---ピッケルバンドは是非必要。
- 今日は特別雪が硬かった。
- スタッフの練習は1時間20分位行なり。心于気味の部員も出た。
- どん村雪道でも必ずリーダーの命令を聞くべきである。

○ 天狗沢ーコブ頭 L 坂本 小林(喜) 後藤 朝倉 葛西 片岡

6.00起床 7.30 BC 出発 8.15 岳沢 推石堤 10.30 天狗ノコル、エッセ

12.30 コブノ頭 13.30 天狗ノコル 14.30 岳三水場 15.30 BC着

リーダー会

- 。雪は少なくて硬いため タタミ岩はアイゼンをつける。
- 。帰りは雪が軟らかかったため アイゼンをはきずし、グリセードを下ったが、1/3以上は表面だけクラストし、内は軟らかかった。
- 。天候はくすれもまだ、時間が遅いため奥氷をおとめた。

。 霧三岳 L 茅野 若狭 尾形 大井 越田 三石

7.15 BC発 田代池付丘より沢に入る。11.00 雪糸をつめ終り 12.00<sup>5分</sup>手前のコル着。

12.30 昼食後下山 グリセード 2.45 BC着

リーダー会 7.30 ~ 10.11

5月1日 曇り

エッセン当 4時起床

6時エッセン

6.25 レーダー発表

前夜の新雪がかな! 深い。

。 奥明神沢 - 糸氷 - 奥又白 L 安藤 松井, 川本, 田 卓倉, 阪, 佐藤

7.00 BC発 奥明神沢入口 9.00 ~ 9.10, 沢の中向で昼食, アイゼンをつける 9.45 - 10.10

糸氷頂上 12.20 ~ 12.35 A沢 猿頭 14.10 小サ皆克 14.55 奥又白池

3.30 ~ 3.50 奥又本谷出合 4.45 徳沢 5.05 6.15 BC着。

リーダー会

。A沢を見付けをこぼし苦労した。

。松高ルンゼは新雪20cm位。くさってしてグリセードは出来なく、アイゼンに雪がつかって固った。

。 天狗沢 - 面爪高岳

L 片岡 大井, 尾形, 若狭, 後藤, 三五, 木野, 宮下, 越田, 玉野田, 宮島,  
( 藤田 途中女子隊へ, 齊田, 福田, 向ノ沢下隆 )

7.10 出発 9.15 天狗沢中腹にて アイゼンをつける。 10.25 天狗ノコル着 天狗ノコル エッセン  
13.40 西木頂上、 1.45 西木沢下隆 奥 及び エッセン、 1.55 同発、 4.20 BC 着。

○ 霧沢岳 L 川村 他 35名  
7.00 出発、 帝國 ホテル 前 入り。 10.10 後線着、 10.35 ピーク 手前 の 三角 着 エッセン  
11.00 着、 1.20 ~ 1.50 BC 着。

リーダー会

- 雪車 及び グリセード が 出来なく、ラッセルが 苦労した。
- ピーク まで 三角 奥 入り 20分 位 いたった。
- 雪 線 末端 で グリセード の 練習 を した。

リーダー会

今後の 行動 予定

○ 新人 訓練 予定 地

1. 天狗沢 コル まで か、西木 まで。
- 理由、安全度、グリセード、アイゼン 使用 の 可能、ルート 研究 が 出来る。
2. 西木 沢 一 向 ノ 岳
3. 奥 明神 沢 前 木 ノ、 奥 明神 前 奥 又 へ。

- 新人 の グリセード は 完全 か。---- 一人 前 の 者 も あり、下 手 な 者 も あり。
- 奥 明神 沢 の 方 情 況 を 判断 さ せ じ かり すれば、A 3 を 下 る 事 も、新人 の コック アップ に より 可能 だ ろ う。
- 天狗 沢 を マスター した 上 で、奥 明神 沢 前 木 ノ と、す ず る べ き だ ろ う。
- 新人 は ピーク だけ を 望 ん で いる の だ ろ う だ け だ ろ う。



● 視覚度の問題について。

- 全員 明日は視覚が正常に行きかかると見込める。
- セツカクの天候に停滞と予報が元々あり、視覚が正常に行きかかると見込める。
- ドクター、三日行動したリ一回は休む方が望ましいのでドクタースタッフを命じる。
- 生はんかな行動なりせ給方が望む。

結論、明日は天候にかかわらず視覚が正常になる。予定は二日借犬の会則検討と交歓会が行なう。

リーダー会 7:00 ~ 10:50 分。

5月2日 雨

エッセ当 5:00起床 6:30 エッセン 7:30 ~ 10:00 リーダー会。  
10:05 交歓会 (自己紹介、気配、)、会則検討 15:00 同終了。

5月3日 快晴後高曇り。

● 天狗沢一奥木 L 蒔田、大町 L 川村、安藤。

6:35 発 ミロツ412 天狗ノコル着 9:30 11:40 コルノ耳トラリス手前で引き返す。  
サイル使用、強風、雪煙まじ。 13:10 コル着、グリセード 多少可能。 15:30 Bc着。

リーダー会、

- 稜線は雪煙、下はゆエツた。
- 尾根の雪崩はなかつたが、縦正隊等加多新居リ、奥木を断念した。
- 川村組は蒔田組と行さほ同じにたが、コア頭で掘、片岡組を1時間待ち、一緒に下った。

● 壘岩尾根 片岡、堀

6:40 出発 8:00 コア頭出合、ほとんど休まず、 2:20 アサイルン 3:20 登はん終了。 4:00 天狗ノコル (13)

5.05 BC着

リーダー会

- 雪崩がはんぱんにあり、モシリシュルとトクサレ雪のため、ブツシュ 伝いに登った。
- 3.20 稜線まで川村、加藤組と一緒に下り、天狗岩を下る。

◦ 奥明神沢一奥又白 L 木野 中村、加藤(晋) 山口、三石、北丸、伊藤、

6.45 発、 8.55 奥明神沢を入ってアイゼンをつける。 9.40 稜線コル着。 10.25 前氷ロープ着。  
エッセン 11.15 頂上出発、 13.00 奥又池着、 13.55 新村橋、 15.30 BC着。

リーダー会

- A岩は雪崩とうなりで、踏サ替え岩まじりサイルをフィックスして下った。

◦ コブ尾根 蟹江、茅野

6.15 出発 11.05 エッセン、 15.00 稜線、エッセン、 16.00 天狗ノコル 16.30 岳頂 18.00 BC着

リーダー会

- コブ岩取り付き尾上部 1/3 位の所で、あせうく雪崩をのりかえ、ブツシュの中に逃げこみ登った。
- コブはアンサイル、ユアの登りはあき難かしくはななかった。

◦ 西水沢 L 新名、青田、後藤、加藤、真島、安西、小谷

6.40 出発、 9.45 3ピッチで向岳直下 稜線に到着、 11.20 西水頂上、 11.30 寺でエッセン  
西水岩を下る。 12.50 まじりストップの練習、 13.00~13.44 サイルストップ練習、  
14.40 グリセード、 15.30 BC着。

◦ 西水沢 CL 坂本、SL 福田、E 池田、長尾、野村、天保、松原、新市、大沢、山崎、畑山、下倉、森田、岩本

7.15 出発、 8.30 西水沢取り付き、 10.30~11.30 西水と同岳のコルにエッセン。



1.10 ~ 2.00 西木沢下部にてストップ練習。

3.15 BC着。

天狗沢 L. 大井, 岡, 新井, 戸次。

6.45 BC出発. 8.50 天狗のコレ着  
シツフェル, グリセード練習 12.40 エツセル

9.35 エツセル終了. 10.15 ~ 12.25.

2.10 岳三沢水呑場. 3.00 BC着。

天狗沢 L. 佐藤, 若狭, 葛西。

6.45 BC出発. 9.35 ~ 10.00 天狗のコレにて昼食  
練習. 12.35 ~ 1.30 天狗沢出合。

10.30 ~ 12.00 天狗沢途中にてエツセル練習

2.15 ~ 2.30 水呑場. 2.55 帰着。

14日曇り, 無風。

九百山 L. 片岡 他新人等 22名。

6.20 BC着. 7.05 ~ 7.20 雪溪中盤露岩 (A)

7.40 尾根上 (B)

8.30. 急な雪溪の登り. (C)

11.00 ~ 13.00 カレ境. (D) エツセル

13.20. 梓川谷の道 (E)

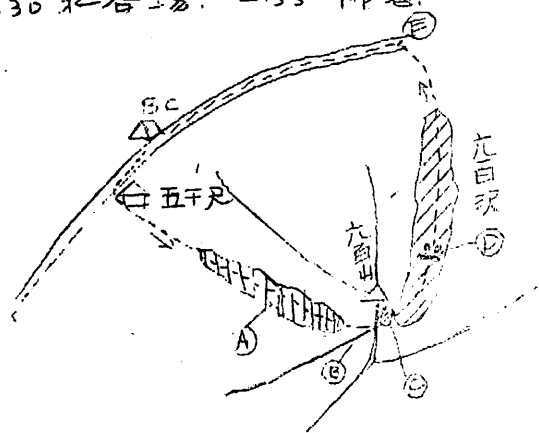
13.30 BC着。

リーダー会

。頭から右の雪溪を下る時, 30分位で隣に出会い, トラバースして木の中を下った。

。ファックスマ 五メートルの岩をアツプ・サイト上をしたらして帰った。その後快調に下った。

。奥明神沢一奥又白 L. 鷺江 若狭他 14名。



6.45 発、奥明神沢入口にてアイセシを付ける 8.12~38 奥明神沢コル 9.35-157  
 アイセシをぬく。 10.23-42 前木頂上 10.55 A沢コル 11.20-12.05 奥又池エッセシ  
 12.40-55 松高ルンで出合。 2.25-55 明神池。 3.25 BC着。  
 リーター会。

A沢で2本の雪崩に会ったが逃げた。その後雷崩道を下る。

○ コブ尾根。 L 川村、中藤、佐藤、葛西。

5.55 発。 7.50-8.00 コブ沢入口でアイセシを付ける。 9.00 コブ尾根稜線。  
 10.30 コブ岩取り付3美。 10.45-11.10 コブ岩頭で昼食 12.05-12.30 エッセシ  
 1.00-1.15 天狗ノコル 2.40 BC着。

○ 南稜 - 奥木 - 糸木 - 奥明神沢 L 茅野、木野、伊藤、小丸、加藤(晋)

6.15 発。 7.25 岳沢水呑カ場。 8.25 滝上部 アイセシを付ける。 10.40 ツリ尾根稜線  
 10.45 奥木ピーク 11.55 重太郎新道 前木直下にてエッセシ 12.20 アイセシをはずす。  
 クリセードで奥明神沢へ下る。 1.20 岳沢水呑カ場 2.40 BC着。

○ 西木 - 天狗岳

5.50 出発。 7.00-7.10 西木沢雷境下のかり場で休息。 7.30 西木沢の西側の  
 尾根に取り付き、アイセシを付ける。 9.45 稜線着 エッセシ。  
 10.15 西木頂上。 11.30 天狗ノコル着。 エッセシ 12.00 発。 クリセード。 後クリセード快調。  
 12.20 水呑カ場。 1.20 BC着。

## 合同合宿の総括

- 訓練の成果あり。
- 行軍中雪を食べたり水を飲んだり部員をたまたみ見下。
- 新人の行動が一般にスロモーターだった。
- 装備の不足が目立った。
- SMAC調が濃厚だった。
- 各兵部それぞれ特色を持っていて、いろいろ長一短あり。  
それをいっつも認識している事が必要。
- All 徳大OB会の問題。

## その他の事項 学生委員

長野 { 教育 藤田 大西  
工学 加藤 新名

織笠 高橋 野村

松本 { 文理 伊藤 小林  
医学 坂本 岩本

分校 藤井 西村

農学 佐藤 川村

# ESSEN PLAN

日	1	2	3	4	5	6	7
あ	ライス みそ汁 (ホーレン)	ライス みそ汁 (ホーレン)	ライス みそ汁 ツタダニ	ライス みそ汁 サラダ	ライス みそ汁 ツタダニ	ライス みそ汁 サラダ	ライス みそ汁 ツタダニ フセロ アイス
い	ビッパロ カンパン	ビッパロ カンパン	菓子 甘イモ 紅茶	ミソパン カンパン あめ 煎ミカン	ミソパン カンパン あめ 紅茶 煎ミカン	ビッパロ カンパン あめ 紅茶 煎ミカン	パン ジュース 煎ミカン
う	ライス アツ汁 ツタダニ	ライス アツ汁 煎神漬	ライス マカロニ アツ汁 ツタダニ	ライス アツ汁 漬物	ライス 肉の野 菜(アツ汁) ツタダニ	ライス スキ焼 ツタダニ	X

# 装備計画

	長 野	松 本	農 学	織 維	分 校
ビッパロ	16	24	5		
アイロン	5	17		2	
ガイル	4	6		/	
ラジウス	2	5			1
ホリタン		4			
タバ	2	2			
カマ		3			
食器	36	130			
ダルト	2			/	
コッフェル		11		/	
係	若狭	山本	安藤	若林	



# 合宿を觀みて

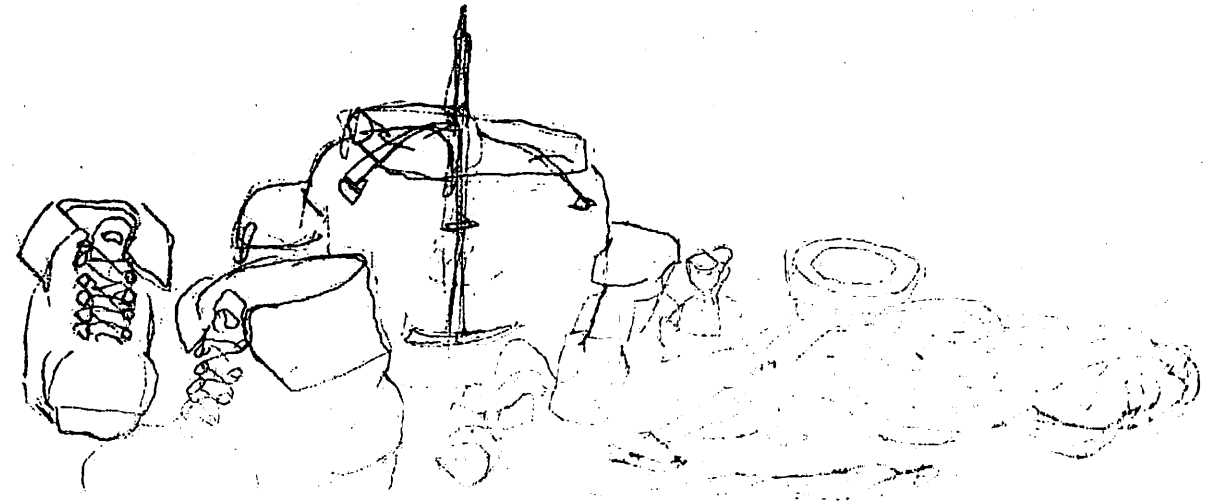
—教育学部十年 蒔田 修—

信大各学部山岳部統合の問題はすでに数年前からあったことと同様。その努力が果さなかつたのは、山岳部に關する限り、形式的な名ばかりの統合でなく本質的な統合が成されるべきであるという考え方があつたからであり、それ故に又、各学部山岳部独自の慣習、合宿の方法、形態、あるいは創制の時期（新制大学前と後）即ち伝統といったようなもの、さらには各山岳部がバラバラであるという地域性の問題などはこの問題における大きい壁であつたと考える。望ましい統合のあり方は、そういう各学部の伝統をある程度乗り越え、我々部員が互に同じ場で、人間的人格的に融け合ひの中で技術を練磨し合宿することだと思ふ。この意味からすれば今回の合宿は「信大山岳会」発足の第一歩として記念すべき合宿であつたと思ふ。各学部山岳部代表者2名が参加し、「信大山岳会」結成及びその会則に關する2回の協議の結果（第1回松本本部11月、第2回美ヶ原高原2月）信大全学部の合宿を千原でほなひかという話があつてからついに実施に至つたわけである。4月29日、7学部30余名の部員の参加のもとに行われた合宿を見て私は力強さを感じた。（と同時に我々一人一人が力を出し合つて結束しなければならぬと思つた。）

今合宿を通じて裝備あるいは細かい技術上の問題はリーダー一會でも話し合ひ、ここに述べてある種々の意見の通りであると思ふ。



札の。  
 小舎宿の成果及び評価は、週間の合宿だけで行おうかどうか。我々として  
 しろこれを機会に何かにすべきを考え、これからの成果に期待したい。  
 六長指導教官が置かれてはいるが我々学生間との連絡はほとんどないように見  
 れる。いざという時に呼んでお願いするといふ行き方ではなく普段から連絡  
 ような組織であるべきだと思う。



No. 4 M. Sakamoto